

製品名: KIF4A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13015**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	140kDa

抗原情報

遺伝子名	KIF4A
別名	KIF4A; KIF4; Chromosome-associated kinesin KIF4A; Chromokinesin-A
遺伝子 ID	24137.0
SwissProt ID	O95239
免疫原	抗血清はヒト KIF4A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1171-1220

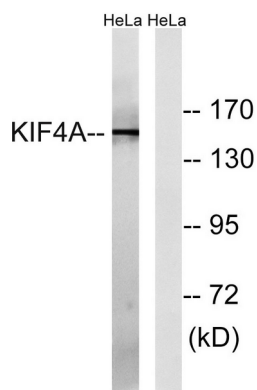
背景

キネシンファミリーメンバー 4A(KIF4A) Homo sapiens この遺伝子は、キネシン関連タンパク質のキネシン 4 サブファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、ATP 依存性の微小管ベースのモータータンパク質で、膜状細胞小器官の

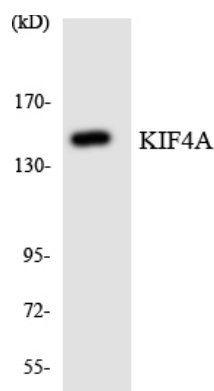
細胞内輸送に関与しています。また、このタンパク質は凝縮した染色体腕に関連し、有糸分裂中の染色体の完全性の維持に関与している可能性があります。このタンパク質は、細胞質分裂前の中央紡錘体の組織化にも関与している可能性があります。この遺伝子の擬似遺伝子は、X染色体上にあります。[RefSeq 提供、2010年3月]、機能：中期から後期への移行中に、PRC1を噛み合った紡錘体の微小管のプラス端に転座させるモータータンパク質。これは、組織化された中央紡錘体の中間領域と中間体の形成、および正常な細胞質分裂に不可欠なステップです。有糸分裂期の染色体配置と双極性紡錘体の安定化に関与している可能性がある。、配列注意：混入配列。ポリ A 配列の可能性はある。、類似性：キネシン様タンパク質ファミリーに属する。、類似性：キネシン様タンパク質ファミリーに属する。クロモキネシンサブファミリーに属する。、類似性：1つのキネシンモータードメインを含む。、細胞内局在：核小体には存在しない。有糸分裂初期には有糸分裂紡錘体に関連し、分裂後期には紡錘体中層に局在し、分裂終期および細胞質分裂期には中体中央に局在する。細胞質分裂後期には中体中央に局在する。有糸分裂の全段階において染色体と関連する。、サブユニット：有糸分裂後期に非リン酸化 PRC1 と相互作用する。、組織特異性：造血組織、胎児肝臓、脾臓、胸腺、成人胸腺および骨髄で高発現する。心臓、精巣、腎臓、結腸、肺でも低レベルに発現する。、組織特異性：精巣で特異的に発現する。、

研究分野

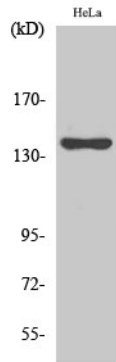
画像データ



KIF4A 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



KIF4A 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 希釈の KIF4A ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析